

◆研修会参加記◆

研修会に参加して

澤田 千恵美

私は、2005年2月に図書室の担当者となりました。今回の研修会参加が2回目です。

今回の研修会でよかったのは、第一に研修部から、研修会の日時や内容などの事前アンケートがあったことです。私は、担当者として経験が浅く、個人的には昨年の研修会はわからない用語も多くて難しかったという感想と、当院の図書室は私が担当者となるまでは、実質担当者不在といえる状況であったため、図書室の日常業務そのものが確立されておられませんので、基礎的な研修会を希望しました。基礎的な内容もあって、今年に初めて参加された担当者にはわかりやすかったと思います。病院図書室の実務については、病院内で指導を受けることは難しいので、実務に生かせる研修会を今後も希望します。

「図書室の患者への公開」は徳島赤十字病院図書室の広さが当院と同じくらいの規模で、当院も今年から図書室に患者様閲覧コーナーを設ける予定であるため、大変参考になりました。特に他部門との連携が大切であることが印象に残りました。

「図書室の運営と管理」は図書室業務がわかりやすくまとめられていたので、参考にさせていただこうと思いました。最後にグループ討議があり、各病院が抱えている課題、研修会でわからなかったことを話し合う場があ

りました。昨年は初対面の人ばかりであるにも関わらず近畿の参加者の方に日頃の疑問を質問させていただいたのですが、みなさんに親切にご指導いただきました。そういう意味でもグループが地区別に組まれていたのは話し合いやすくよかったです。

第二に東京女子医科大学図書館と「からだ情報館」の見学ができてよかったです。

患者図書館についてインターネットで調べると、最近は多くの病院が患者図書室を設置されていますが、その定義はいろいろで蔵書数や担当者の職種も様々です。その中でも「からだ情報館」は立ち上げられてから3年目ということだったので、軌道にのった図書館という意味で一度見学してみたいと思っていました。実際に患者図書館を見に行く機会にめぐまれて感謝しております。見学して学んだことはどちらの図書館であっても医学図書館というのは常に最新の情報を利用者に提供するという姿勢です単行本の請求ラベルに発行年度と版を記入するという方法を恥ずかしながら今回初めて知りました。公共図書館以上に担当者によって利用者が得られる情報が決まってしまうともいえるので、今後も自己研鑽しなければと意識しました。



SAWADA Chiemi

京都第二赤十字病院 図書室

library@kyoto2.jrc.or.jp